

彫金
Metal Carving

鍛金
Metal Hammering

鑄金
Metal Casting

漆芸
Urushi-Art

陶芸
Ceramics

染織
Textile Arts

素材造形
(木材・ガラス)
*Material Arts
Woodworking & Glass*

工芸

KOGEI

2025

「2025年度」学科案内

DEPARTMENT OF CRAFTS,
TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS

東京藝術大学
美術学部工芸科



TOKYO GEIDAI



DEPARTMENT OF CRAFTS, TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS

現代社会は、AIや3D技術などのデジタル化が急速に進展する一方で、気候変動の深刻化や社会情勢の不安定さが増しています。こうした変化の中で、人と人をつなぐ「アート之力」がこれまで以上に求められているのではないのでしょうか。その中でも、素材と向き合い、手と感性を通じて形や色彩を表現する工芸は、今後ますます重要な役割を担うと考えます。

東京藝術大学工芸科では、彫金・鍛金・鋳金・漆芸・陶芸・染織といった多彩な分野において、世界でも類を見ない高度な専門教育を行っています。伝統技法を継承しつつ最新の機器や技術を積極的に取り入れながら研究を深めています。茨城県の取手校地には、2022年度からは新たに木材・ガラスの「素材造形」分野が加わり新たな可能性を切り拓く場となっています。

近年、工芸はその枠を超え、現代アート、デザインさらにはテクノロジーとの融合によって、新たな表現領域へと広がりを見せています。伝統的な技法を深めるとともに、自由な発想のもとで新しい表現に挑戦できる環境を整えています。工芸は、伝統から現代アートまで、多彩な表現の可能性を秘めています。素材と向き合い、自らの手で新たな価値を生み出す。その挑戦の先には、まだ誰も見たことのない世界が広がっていると思います。あなたの「つくる力」と出会えることを楽しみにしています。

ごあいさつ

東京藝術大学美術学部工芸科 科長

丸山智巳

Maruyama Tomomi

工芸学部入学試験は、第1次試験の鉛筆写生、第2次試験の平面表現、立体表現、大学入学共通テスト、出身校の調査書から総合的に審査し判定します。

受験科目だけのエキスパートになるのではなく、様々な場面において力を発揮する柔軟な学生を求めています。

問題文は、以下の本学ウェブサイト「入試過去問題」からご覧頂けます。
<https://admissions.geidai.ac.jp/>



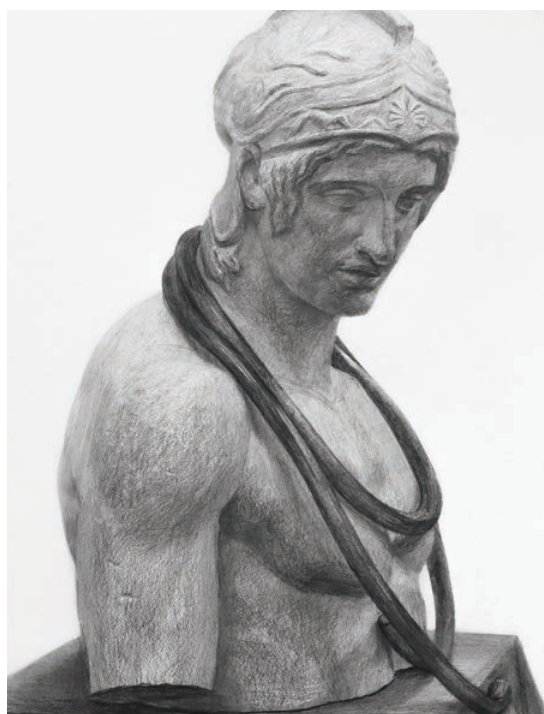
平面表現

描写力や構成力をつけることが基礎となり、同時に豊かな色彩感覚を身につけることで工芸独自の質の高い作品を制作することが可能になります。対象を観察し構成する能力は、素材を扱い制作することに必要な、豊かなイメージや感性を養うことにも繋がります。



2025年度

合格者作品



鉛筆写生

写生は、あらゆる意味で創作活動を支える造形の源になるため、工芸科では高い水準のデッサン力を有した人材を求めています。モチーフの観察から得られた発見や感覚は、素材を扱って作品制作をする工芸科にとって大切なことと考えます。

立体表現

モチーフの的確な観察による空間を意識した立体感の把握、質感の表現は、立体表現における基本です。さらに工芸科の専門分野の様々な素材に対応できる柔軟な能力と、個性溢れるイメージや発想の独自性などが必要となります。



工芸科では、2022年度学部入学生より、彫金・鍛金・鑄金・漆芸・陶芸・染織・素材造形（木材・ガラス）の7分野編成にて授業展開を行っています。授業は各分野の特徴ある工房を使用した実技指導と、歴史ある資料などを用いた個人指導を中心にしています。

1年次は、基礎的な表現力と造形感覚を習得するため、工芸科各分野の専門技法と絵画科、彫刻科教員による日本画や素描、塑造という美術全般にわたる授業を行います。

2年次より7分野に分かれて専門的

な造形表現や知識を習得していきます。

3年次には、複合的な学生の育成を目指し、分野の領域を跨いだ工芸総合演習を実施します。

4年次には卒業制作に取り組み、学部での成果を発表します。

多くの学生が大学院修士課程に進学し、各自の専門性をさらに高めています。その後、博士課程に進学して研究を続ける学生、社会に出る学生と、それぞれの道に進んでいきます。

※2021年度学部入学以前の学生は、入学当初の分野編成で卒業までの授業展開を行います。

工芸科教員「2025年度」

彫金	教授 教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	前田 宏智 岩田 広己 中安 麗／崔 壽現 熊坂 美友／石 芮寧
鍛金	教授 教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	丸山 智巳 志村 和彦 岩崎 裕純／塩見 亮介 鎌田 晶／澤 優希
鑄金	教授 准教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	谷岡 靖則 三枝 一将 南 時俊／見目 未果 金 孝眞／石川 将士
漆芸	教授 教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	小椋 範彦 青木 宏憧 佐々木 岳人／田中館 亜美 新井 寛生／小林 このみ

陶芸	教授 准教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	三上 亮 椎名 勇 岩淵 真理／田中 隆史 中嶋 雄里／仲鉢 聖波
染織	教授 准教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	橋本 圭也 山田 菜々子 大小田 万侑子／梅田 祐子／金田 真咲 河邊 実央／藤江 いづみ
素材造形 (木材・木工芸) (ガラス・ガラス造形)	講師 准教授 テクニカルインストラクター 教育研究助手	園部 秀徳 地村 洋平 中内 安紀徳／奥田 康夫／金 到然 梶原 康紀／後藤 夏希
工芸	助教 教育研究助手	佐治 真理子 三塚 貴仁／藤埴 真由子
取手工芸	テクニカルインストラクター	下城 爽

カリキュラム（学部）

学部	1年	学部	2年	学部	3年	学部	4年	
工芸	●基礎造形実習 ●実材実習 ※[彫金][鍛金][鑄金][漆芸][陶芸][染織]より3分野を選択。 ※[素材造形(木材)][素材造形(ガラス)]から1分野を選択。 ●塑造実習 ●絵画実習(素描) ●絵画実習(日本画) ●表示図法 ※工芸科教員による「工芸制作論」が必修科目です。 ※「教職課程」「博物館学課程」を選択し履修できます。	彫金	●彫り ●基礎技法 ●接合 ●装身具制作 ●象嵌 ●打ち出し	古美術研究旅行	工芸総合演習	●各種技法研究(彫金技法及び七宝など) ●箔(各種色金) ●研究制作	●研究制作	卒業制作
		鍛金	●道具整備 ●基本回転絞り ●花器制作 ●機械工作演習 ●変形絞り			●溶接実習 ●鍛造実習 ●木目金実習 ●接合実習	●研究制作	
		鑄金	●道具制作 ●生型鑄造 ●蠟真土型鑄造 ●石膏鑄造 ●精密鑄造 ●着色研究Ⅰ			●真土込型鑄造 ●着色研究Ⅱ ●溶接実習[隔年]	●鑄金制作法講義 ●研究制作	
		漆芸	●道具制作 ●手板制作 ●工程手板制作 ●蒔絵 ●螺鈿、卵殻、平文			●乾漆造形実習 ●木胎造形実習	●蒔絵 ●変わり塗り ●研究制作	
		陶芸	●粘土づくり ●轆轤成形 ●窯炉焼成 ●登り窯焼成[隔年] ●釉薬見本制作 ●石膏型成形			●轆轤成形 ●釉薬及び絵具制作実験 ●泥漿鑄込み成形 ●制作実験	●轆轤成形 ●研究制作	
		染織	●色見本制作 ●ろうけつ染 ●紅型、型染 ●スクリーン捺染 ●基本織り組織 ●拵織 ●二重織			●友禅染 ●絞り染 ●綴織 ●フェルトワーク	●創作研究	
		素材造形	●[木材] ●道具仕立て ●指物、曲物 ●刳物、挽物 ●[ガラス] ●ホットワーク ●キルンワーク ●コールドワーク			●[木材] ●木材造形演習 ●木工技法材料演習(家具) ●[ガラス] ●ホットワーク ●キルンワーク ●コールドワーク	●研究制作	

カリキュラム（修士）

修士	1年	修士	2年
彫金	●彫金技法研究 ●精密鑄造実習 ●溶接実習 ●彫金制作法	修了制作	●彫金技法研究 ●彫金制作法 ●研究制作
鍛金	●鍛金技法研究 ●精密鑄造実習 ●鍛金制作法 ●取手工工機械実習 ●七宝演習 ●研究制作		●鍛金技法研究 ●鍛金制作法 ●研究制作
鑄金	●鑄金技法研究(減圧鑄造) ●鑄金技法研究(セラミック鑄造) ●プロジェクト演習 ●鑄金制作法 ●研究制作 ●溶接実習		●鑄金技法研究 ●鑄金制作法 ●研究制作
漆芸	●漆造形技法研究 ●漆装飾技法研究 ●漆芸歴史研究 ●研究制作		●漆造形技法研究 ●漆装飾技法研究
陶芸	●陶磁技法研究 ●窯炉制作実習 ●登り窯焼成 ●研究制作		●陶磁技法研究 ●研究制作
染織	●染技法研究 ●織技法研究 ●取手草木染研究 ●取手ファイバーク		●染技法研究 ●織技法研究
素材造形 木工芸・ガラス造形	●[木工芸] ●木工技法材料研究 ●木材造形研究 ●研究制作 ●[ガラス造形] ●ホットワーク ●キルンワーク ●コールドワーク		●[木工芸] ●木工技法材料研究 ●木材造形研究 ●研究制作 ●[ガラス造形] ●研究制作

※本カリキュラムは改定になる可能性があります。

制作風景



工芸科の 学内行事

Department of Crafts

工芸科では、研究の一環として古美術研究旅行をはじめ、様々な行事やイベントを行います。学生主体で一つのイベントを成し遂げる事や、国際的な視野を広げる経験は、通常の授業とは異なる貴重な機会となります。

A		D		E	
A	B	F		E	
B		F		G	G
C		F		G	

A 古美術研究旅行

学部3年生の4月に10日間かけて、奈良と京都の神社仏閣を見学・研究します。

B 国際交流

海外のキュレーターや美術大学教員などを招聘し、国際的な視野を広げる授業をします。

C 藝祭

夏休みに開催する大学祭です。学部1年生は御輿と法被を制作してパフォーマンスをします。

D 分野ごとの祭事

工房を運営する上で大切な安全を祈願する祭事です。

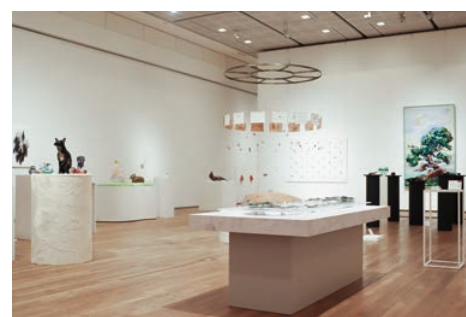
E 研究旅行

分野それぞれに研究分野への理解を深めることを目的に各地へ旅行をします。

F 制作風景

G 卒業・修了作品展

学生制作活動の集大成となる、学部・大学院の研究成果展です。



彫金

Metal Carving

鑿を操り生み出される繊細な世界

彫金は、主に金鍍と鑿を使用し、金属を彫る、立体的に打ち出す、他の金属をはめ込み象嵌をするなど、様々な加工技術を基礎として学びます。金属の切削性や可塑性を生かし、金属同士をつなぎ合わせて器やオブジェ、ジュエリーなどの作品が制作されています。また本学の取手校地には金工工房表面処理室があり、七宝焼きについてもカリキュラムを設けて学んでいます。



透かし彫りの技法によるジュエリーの仕上げをしています。

素材には銅・真鍮(黄銅)・錫・鉄・ステンレス・アルミニウム・チタニウムや金・銀・プラチナなどの貴金属、伝統的な日本の合金である赤銅・四分一などがあります。カリキュラムの進行とともに技術や素材の体験を重ねて、感性や表現力を高め、学生それぞれの研究テーマによって制作研究が進められます。たえず生活空間全体を意識し、現状における表現方法の在り方を探求して新しい個性を築き、世界に発信しています。



鑿を用いて鳥の羽の形や模様を作っています。



卒業後の進路 | 彫金 TERAJIMA Takayoshi

美術家

私は2015年に大学院を修了後、ドイツ・ミュンヘンを拠点に作家活動が続いています。欧州を中心にギャラリーや美術館での展覧会に参加し、フリーランスの美術家としてビザを取得しました。現在は、学生時代に習得した鑿仕事を独自に発展させ、生成AIやデジタルツールと融合させた表現に挑戦しています。

留学を目指したきっかけは、在学中に参加した集中講義でした。先生方のサポートを受け、学生のうちに外の世界を知る機会を得られたことは幸運だったと思います。彫金研究室で学んだ多様な技法や哲学は、言葉や文化の壁を越え、作家としての道を開いてくれました。伝統を継承しながら、時代とともに変化する表現を模索し、自分なりの視点で制作を続けていきたいと考えています。



寺嶋孝佳さん
2015年修士課程修了



卒業後の進路 | 鍛金 HIKOSAKA Ryo

美術作家

私は芸大在学中にフランス・パリへ交換留学し、大学院卒業後からはパリに住んで制作活動を行っています。芸大のおかげで、格式ある大学との交換留学が実現し、その後のフランスでの交流が広がるきっかけとなりました。

現地の工房と仕事をしながら、金属着色を学び、日本で学んだ鍛金の技術とフランスの技術を融合させ、その後、自分の工房を設立して作品制作を続けています。日本の鍛金技法は海外でも非常に珍しく、芸大で習得したこの技術のおかげで、カルティエをはじめとする大手ブランドや、国際的なプロジェクトに多く参加することができました。

現在は、これらの仕事に加え、自分の家具制作や彫刻作品を通じて、海外の現代アートフェアや工芸のサロンで活動しています。芸大で培った技術と繋がりが、海外での仕事のチャンスを開いてくれました。



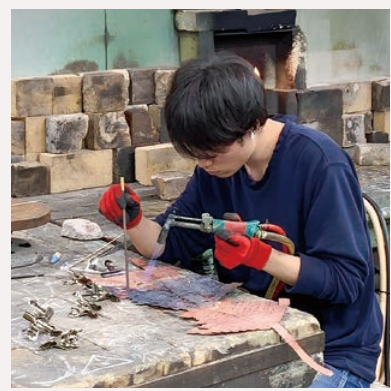
彦坂良さん
2012年修士課程修了



一枚の銅板を、様々な金鍍と当金を用いて造形します。

鍛金は、銅などの様々な金属の板を金鍍で叩き立体へ加工する“絞り”と、鉄の棒材などをバーナーや炉で赤くなるまで熱し叩いて加工する“鍛造”の2つの伝統技法を軸としています。

カリキュラムは、基本手絞り実習(回転体)・1枚変形絞り(動物制作)・鍛造実習・接合実習(木目金制作、ロウ付け等)があります。これらの基礎技法に加え現代的な機械加工・各種接合



銅板で制作したパーツ同士を、ろう付けで接合しています。

鍛金

Metal Hammering

金鍍を用いて多彩な造形を作り出す

技術なども実習を通して学ぶことで、金属造形の基礎知識と総合的な表現力を養い、より幅広い創作力の向上と多岐にわたる作品制作を目指しています。

卒業後は、現代美術家・伝統工芸作家として独立し活動している者や、専門知識を活かしデザイナー(建築・内装・広告・プロダクトなど)・教育者・研究者などの職に就く者など、様々な方面で活躍しています。

鑄金

Metal Casting

イメージにあるかたちを視えるかたちに



1080℃前後の溶解温度で銅合金を流し込みます。その場面を「吹き」と言います。

石膏原型から金属に置き換えるための工程で、日本の伝統的な真土込め型技法の制作風景。

鑄金とは、粘土などの造形しやすい素材で制作した原形（めがた）として抜き取ることによって鑄型をつくり、その3～4mmの隙間に溶解した流動性の良い合金を流し込むことによって造形される技法を言います。つまり、鑄金では溶けて液体となった金属が再凝固することで、他の造形法にはみられない独特の表現を成すことができます。こういった鑄金造形の制作法は世界各国の

民族によって独自の特徴ある方法で太古の昔から行われており、その民族嗜好がとても分かりやすい形で造形されて残っています。

本学の鑄金研究室では130年の歴史の中、楠木正成像などの彫刻や日本橋麒麟像なども鑄造しつつ、工芸としての美を追求してきました。現代による表現でも、鑄金による造形としての厚さに兼ね合せて精密鑄造技法によ

るとも繊細な表現も可能となり、現代志向での新しい表現に向けて秘めた可能性を試行しつつ急進的な制作をしています。

卒業後は企業への就職、大学院修士・博士課程への進学や海外留学などを通してより深めた独創性ある研究の中、その成果を糧に美術作家・デザイナー・教育者として国内外で活躍しています。



卒業後の進路 | 鑄金 SEKIDO Soichiro

土屋鞆製造所 製造部佐久工房

鑄金の持つおらかな佇まい（たたずまい）に無い魅力を見出し、専攻を決めました。原型から型取り、土を用いた鑄型制作等、出来上がるまでに何度も素材が変わる鑄金は、金属以外のものを触る時間とても長く、様々な素材へのアプローチが必要とされます。その過程を経てしか得られない表情はどの分野にも似つかない魅力があり、我ながら良い専攻を選んだなと今でも思います。鑄金研究室を修了後は、扱える物や技術を増やしたい気持ちから鞆の会社に就職しました。今も変わらず素材に向き合っています。意外にも道具周りの金属加工技術が必要とされる場面が多く、リユーターを握る時には学生時代を思い出します。今後も仕事を通して技術を増やし、自分しか作れないものを生み出していけたら幸せです。



2022年修士課程修了
関戸聡一郎さん



卒業後の進路 | 漆芸 MIYASHITA Tomoyoshi

漆工人

生活を支える漆の器を制作しています。今では、額装、内装、家具制作、修復、ワークショップなど、漆の素材に関わる提案も、器の延長と捉えて仕事としています。漆芸研究室を専攻したのは、完成までの工程が多く面倒だったのと、素材に向かう姿勢が気持ち良く感じただけです。大学時代から夢も目標もなく、目の前にある興味にだけ没頭していたら、気付いたらそれが仕事になっていました。欲に振り回されず、自分に正直に。ワクワクすることであればやってみるのは今でも同じで、周りの専門分野の方に常に助けられています。師匠と先生から受け継いだ伝承を、様々な活動を通して、すべて伝えていくこと。漆の魅力と、裾野を広めていくことが、これからの自分の役目です。大学は、違和感に気づき、改善できる柔軟な身体を養う場であつたと感じています。



2009年修士課程修了
宮下智吉さん

漆芸はウルシの木から採取した樹液を用いた芸術です。その歴史は古く、縄文時代から漆は塗料や接着剤の用途で使用され、アジア独自の素材表現として広く知られています。

東京藝術大学の漆芸教育は基本的な塗りの工程（下地、研ぎ、塗り、磨き）から素地制作（乾漆、木胎）、装飾技法（蒔絵、螺鈿、平文、卵殻、沈金、変わり塗りなど）まで一貫した授業を行っています。また漆に関わる外部専門家による集中講義、歴史研究、漆芸ギャラリーでの企画展示、国際交流などを行い、幅広い視野を持った学生を育成するとともに、学生の自主性と社会への発信力を培っていきます。自己の世界観を探求し、多様な漆芸表現を創作研究することで豊かな感性を養い、社会で活躍できる人材を育てます。

卒業後は大学院へ進学し、研究をさらに深める学生も多く、そこから作家・教育者・研究者・デザイナーなどとして国内外で活躍しています。



伝統的な装飾技法である蒔絵をはじめ、さまざまな技法を基礎から学びます。



最終的な研ぎ作業。完成まであと少し。

漆芸

Urushi-Art

伝統に育まれた自由な立体造形

陶芸

Ceramics

培^{つちか}ってきた伝統と現代の陶芸の可能性

陶芸研究室では土を使用したアート表現を探求し、伝統技法や素材理解を基本とした工芸的思考を深め、さらなる新しい表現を目指しています。学年の進行と共に素材研究から生まれる造形性を重視した教育へと発展して行きます。学生自身の柔軟な発想力を生かしながら実技の積み重ねによって、創造性に溢れ広い視野を持った、第一線で活躍できる人材の育成を目標としています。技術面では、轆轤^{ろくろ}成形^{けいせい}、築窯^{ちくよう}実習^{じっしゅう}、登り窯^{のぼりがま}をはじめ多様な窯の焼成実習、釉薬^{ゆうやく}の調合、デザイン性を主とした石膏鑄^{せつこう}込^い成型^{けいせい}など、多岐にわたる現代の陶芸の基礎的な技法を広く学ぶことができます。独自の発展を遂げた日本の陶芸は、世界からますます注目されており、その伝統を礎として海外との交流にも力を注いでいます。



最高温度1300℃の高温に耐えながら80時間程かけて薪で焼成していく。

卒業後の進路 | 陶芸 OKADA Morihiko

陶芸作家／高等学校教員

父が日本画家で幼い頃から美術に触れ合う機会が多かった私は高校入学の時点で藝大を意識していました。大学で陶芸と出会い学んでいくにつれ、私にとって美術は見て感じ取るものであったのが、陶芸は更に手で触れて感じ取ることができるという事に気づきました。さらに陶芸研究室で学んだ技法で私を魅了してやまなかったのは穴窯です。極めてシンプルなのに薪で焼成する窯は焼き物に他に見る事ができない景色を施します、その制御の難しさ其自然の力に私は夢中になり、陶芸研究室を卒業してからも栃木県的那須高原に自分の手で穴窯を築窯するに至りました。現在私は高等学校に勤めています。生徒と共に美術の歴史について学びながら、ついつい授業の中でも陶芸について熱く語ってしまっています。



染織は、伝統と現代の融合・発展を教育理念に、工芸においてアートとデザインの双方を兼ね備えた人材育成を行っています。カリキュラムの特色は、染と織の多様な技法をバランス良く編成し、基礎と専門の段階的教育によって技術・表現と知識・理論の専門能力を身につけることができます。各自の個性を生かしながら、染織表現における多角的視野と多様性を学び、将来の方向性を見出していきます。

社会で幅広く貢献できるようプレゼン能力を身につけ、次世代の染織作家や教育者、テキスタイル・ファッション・空間演出などのデザイナー、起業家として独自のブランド展開をしていける人材と、グローバル化に対応できる人材を輩出します。

糊や蠟で防染する伝統染色技法や、スクリーン捺染によるリピート表現を学び、柔軟な思考による現代的な表現を探求します。



糸を染め、紡ぎ、織る。多様な繊維素材を扱い、多様な織技法を習得し特有のテクスチャーを活かした造形表現が可能となります。

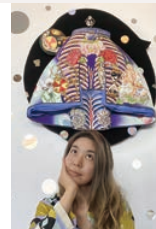
卒業後の進路 | 染織 IMAMURA Eri

アーティスト

私は大学では落ちこぼれて、学部からの大学院入試で前代未聞の不合格。在学中から日本の消費社会や自然破壊に疑問を抱き、東京の現実息詰まりを覚えたことから、ネイティブアメリカンの大自然に帰依した哲学を学ぶ為に渡米。ニューメキシコ州サンタフェにあるネイティブアメリカンの為のアートカレッジ・AIAに留学し、ビーズを学びました。卒業と同時に現地のギャラリーと契約し、現在は、バンコクのギャラリーをはじめ、世界各地のアートフェアや個展で展示をしています。大学で培った日本の伝統工芸的な美学である自然美は私のコアであり、ネイティブアメリカンの世界とアメリカの現実世界で経験する日々が、今の私を形成したと思います。現在、日本の伝統的なイメージと現代の日本文化のイメージを使い、現代社会の問題を研究する制作をしています。



岡田 守弘 さん
2022年 修士課程修了



今村 英理 さん
2001年 学士課程修了

染織

Textile Arts

新しい感性が、今を染める、今を織る

作家活動を続け、ギャラリーやアートフェアなどで作品を発表し、コンペティションで受賞する卒業生を始め、卒業生は、学生生活の中で学んだ知識や経験を基に、デザイナーや制作者など、それぞれの分野でその能力を発揮しています。

工芸科の学生は学部卒業後、それぞれの夢に向かって道を歩んでいきます。大学院へ進学し制作や研究を続ける、企業や教育機関・工房などに勤める、自身のブランドを立ち上げて独立するなど、その進路は様々です。

主な就職先一覧

製造・ブランド

ALTE MEISTER (株) 保志
(株) 安藤七宝店
(株) アンビデックス
(株) イッセイミヤケ
(株) イデー
(株) イビサ
(株) グアンドームヤマダ
(株) SGC
(株) STファクトリー
(株) エフ・ディ・シー・プロダクツ
(株) エボック社
MHソリューションズ (株)
(株) 大倉陶園
沖縄県読谷山焼北窯 (有)
小津産業 (株)
カガミクリスタル (株)
(株) 柏圭
(株) カッシーナ・イクスシー
(株) カブモ
(株) 川島織物セルコン
(株) くるり
(株) ケイ・ウノ
小泉ライフテックス (株)
コクヨ (株)
小松精練 (株)
(株) coly
(株) サザビーリーグ
(株) サンゲツ
(株) ザ・カンパニー
(株) シャルマン
(株) 鈴峯
(株) スタージュエリー
(株) スペース
スリーエムジャパン (株)
セーレン (株)
(有) 清課堂
(株) sou・sou
(有) ソラ
高橋理子 (株)
鍛造指輪 (株)
(株) チャコット
(株) 土屋鞆製造所
(株) ディー・エイチ・シー
(株) ディー・エヌ・エー
(株) 天童木工
東洋佐々木ガラス (株)
西川 (株)
日産自動車 (株)
ニッポンスリッパ (株)
日本アニメーション (株)

(株) 俄
任天堂 (株)
NORITAKA TATEHANA
(株) 箔一
(株) バルコス
(株) 平林七宝
(株) プラスラフ
(株) BRUNCH
(株) ベリテ
本田技研工業 (株)
(株) 本保
(株) マーブルシュッド
(株) マイトデザインワークス
(株) マザーハウス
マルミツ陶器合資会社
ミカレディ (株)
(株) ミキモト
(株) ミキモト装身具
minä perhonen
(株) 三八染工場
(株) ミライロ
村瀬治兵衛工房
(株) 目黒工芸
(株) 目白漆芸文化財研究所
(株) 空目金星
(有) モメンタムファクトリー・Orii
(株) モンベル
ヤマハ発動機 (株)
UHA味覚糖 (株)
ユニベール (株)
(株) ヨーガンレール
吉田テクノワークス (株)
(株) 良品計画
(株) ワコール
1-UP スタジオ (株)
WOHL HÜTTE /

企画・デザイン・印刷

(株) アートナウ
(株) アクア
伊藤忠ファッションシステム (株)
永大産業 (株)
(株) HDR
(株) 岡村製作所
(株) オズ
(株) オリエンタルランド
(株) クリーチャーズ
(株) グレーブストーン
コナミホールディングス (株)
(株) コンチェルト
(株) サイバーエージェント

STUDIO NIJI
(株) セントラルプロフィックス
合同会社 DMM GAMES
(株) 大日本印刷
デザインフェスタ (有)
(株) デザン
(株) テレビ朝日クリエイト
(株) 電通
凸版印刷 (株)
(株) ドラフト
日本ブレイディ (株)
(株) バルス
(株) Plan・Do・See
(株) ベネッセコーポレーション
(株) ポリフォニー・デジタル
(株) マイナビ
(株) MaGO EXPERIENCE
(株) モルフォ

販売

ギャラリーきくら主幹
(株) 九つ井
(株) そごう・西武
(株) 高島屋
(株) 中南海トレーディングコーポレーション
(株) 東急ハンズ
(株) バーニーズジャパン
ブリモ・ジャパン (株)
(株) ベルニナジャパン
(株) モード・エ・ジャコモ
(株) ユナイテッドアローズ

教育機関

【大学】
会津大学短期大学部
青山学院大学
秋田公立美術大学
宇都宮大学
桜美林大学
沖縄県立芸術大学
金沢美術工芸大学
京都精華大学
神戸芸術工科大学
静岡文化芸術大学
四川美術学院 (中国)
女子美術大学
杉野服飾大学
多摩美術大学
筑波大学

大邱大学校 (韓国)
東京家政大学
東京藝術大学
東京工科大学
東京造形大学
東京大学
東北芸術工科大学
東北工業大学
東北生活文化大学
富山大学
長岡造形大学
広島市立大学
文化学園大学
文星芸術大学
北京市立大学 (中国)
武蔵野美術大学
横浜美術大学

【高等学校・中学校・小学校】

全国の複数の学校に在職

【専門学校等】

会津漆器技術後継者訓練校
青森県産業技術センター弘前地域研究所
石川県立輪島漆芸技術研修所
沖縄県工芸技術支援センター
御茶ノ水美術学院
香川県漆芸研究所
柏美術学院
学校法人文化学園
学校法人水野学園
金沢卯辰山工芸工房
富山市立富山ガラス造形研究所
武蔵野学芸専門学校
山梨県立宝石美術専門学校

その他

伊勢神宮
市貝町役場
(株) フォルトウーナ
(株) メーカーズ
警視庁
独立行政法人国立印刷局
独立行政法人造幣局
アトリエ TOCOHA
新見市役所企画政策課
八戸市まちづくり文化スポーツ観光部
星野リゾート
ユカイ工学 (株)

素材造形

Material Arts

木材・木工芸／ガラス・ガラス造形

素材造形分野では、選択した木材またはガラスを主に扱いそれぞれの造形・技法について、演習を通して学びます。木材の演習では、木工に必要な道具の仕立てから、各種基礎技法の演習、総合技法としての家具制作や木材造形を学びます。ガラスの演習では、ホットワーク、キルンワーク、コールドワークなどガラス造形に必要な技法を学びます。取手校地にある様々な工房を利用しながら、素材を通して思考する造形を目指し、卒業・修了制作では自立した研究制作ができる人材育成をします。

木材・木工芸 Woodworking 研ぎあげた刃物で多様な造形を組み上げる

木工は世界の歴史の中で多様な姿と役割を担ってきました。建造物や家具、道具、室内装飾などがあります。その中で日本の木工に注目すると、その造形の考え方や技法、並びに使用する道具の発展に独自性と洗練が見て取れます。本校の木工のカリキュラムでは、木

を組みむ事を中心に据えながら様々な造形と技法を学び、それらを成立させる背景について学びます。卒業・修了後の進路は木工に従事する者、美術家、起業する者、企業のデザインや企画部門への就職、教育者や研究者など様々な方面で活動しています。



鋭く研いだ鑿で、部材の表面を仕上げる。

卒業後の進路 木材・木工芸
Fujimura Miya

学生時代に素敵な家具との出会いがあり、それを形造る木という素材に惹かれ、木工芸研究室に進みました。修了後の現在は、家具のデザインから制作までを手掛ける会社に家具職人として勤めています。長く大切に使うことのできる家具とはなんだろうかと日々考え、素材に向き合って制作に取り組んできた経験が、仕事でのモチベーションに繋がっていると感じています。

WOHL HÜTTE /
家具職人

ガラス・ガラス造形 Glass 変幻自在なガラスの可能性を追求する

ガラス造形技法を大きく分けると「吹きガラスを代表とするホットワーク」「電気炉を使って制作するキルンワーク」「切り子などガラスを加工するコールドワーク」があり、これら全ての技法を学ぶことができます。教員と頻繁に行うチュートリアルや、国内外の作家を招き、実践

的で幅広い視野を持った授業を行うことで、造形力だけでは無く「考える力」「表現する力」を持った、総合力の高い作家の養成を目指しています。卒業後は、個人工房やブランドを立ち上げて、作家活動をする他にガラスメーカーや工房、教育機関に就職をしています。



吹いたガラスを成形している様子。

卒業後の進路 ガラス・ガラス造形
Kurita Eriko

2021年に玉川大学にガラス工房を立ち上げ、大学生にガラス造形の指導を行なっています。私は大学院修士課程からガラス造形研究室に入學、ガラスを基礎から学びました。修了後、5年間の小・中学校で美術科非常勤講師勤務を経て美術教育研究室の博士課程に進學、博士課程の間もガラス造形研究室で学ばせて頂きました。自らの表現を模索する仲間達と切磋琢磨した日々も、先生方の厳しくも鋭い講評も、全て現在の制作や指導に活かしていると感じます。

栗田 絵莉子 さん
2016年 博士課程修了

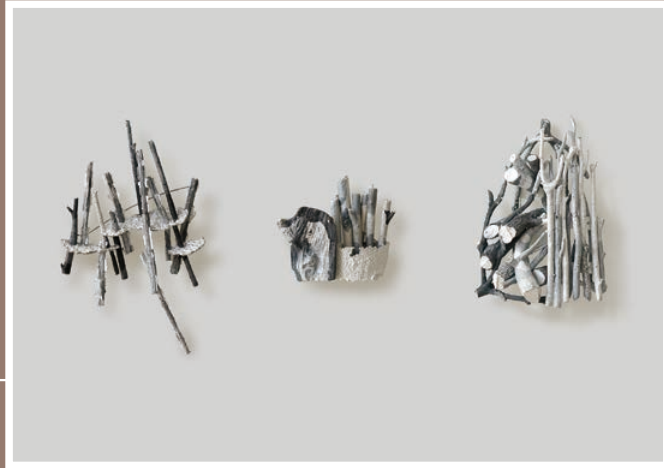
大学講師
ガラス作家

彫金

修了作品

呂 賛蛟《命のキーフレーム》

技法：打ち出し、彫金技法／素材：シルバー、アートクレイ
左：h15×w10×d2 cm、中：h5×w6×d2.5 cm、右：h12×w7.5×d3.5 cm



鍛金

卒業作品

土井 源《幸せになりたい》

技法：フォールドフォーミング、打ち出し、溶接、鍛造／素材：銅、鉄、板材
h120×w175×d8 cm



陶芸

修了作品

本間 賛《蠍の月》

技法：手捻り、鋳造／素材：陶土、ブロンズ
h70×w324×d130.3 cm



染織

卒業作品

奥村 凧《ナギまとめ100選くじ～大学生編～》

技法：ろうけつ染め、捺染／素材：綿、反応性染料
h242×w363×d45 cm



卒業・修了作品の紹介

学生生活の集大成

卒

業・修了制作は、学生が作家、あるいは研究者として世界に踏み出す第一歩となります。工芸科での制作は、伝統の中で培われてきた技法を学び、知識を得て、さらに自己鍛錬

し、素材の特性を見据えつつ、技術の習得を目指します。学生は大学で様々な経験を積み、技術の習得はもとより、新たな素材との出会いや創作活動の中で独自の表現を追求します。

情熱と探究心を持ち、挑戦を続けた卒業・修了作品は、自己の創作活動の大きな区切りとなるだけでなく、工芸の世界に新しい可能性を提示し続けています。



鋳金

卒業作品

藤野 ひなた《POTATO》

技法：石膏埋没鋳造法、消失鋳造法、手びねり、酸化焼成
素材：真鍮、ブロンズ、アルミニウム、陶土
左：h40×w50×d45 cm、右：h55×w30×d20 cm



漆芸

修了作品

鈴木 阿弥《乾漆螺蒨絵任侠立像「おことわり」》

技法：乾漆、蒨絵、螺鈿、卵殻
素材：漆、麻布、顔料、銀、貝、卵殻、木、スタイロフォーム
h110×w62×d47 cm



木工芸

修了作品

梶原 康紀《根室の石》

技法：はつり／素材：栗
h198×w116×d60 cm



ガラス造形

修了作品

後藤 夏希《F=》

技法：ホットワーク、キルンワーク／素材：ガラス、ステンレス
h25×w35×d38 cm

研究室紹介

Department of Crafts

工芸科は彫金、鍛金、鋳金、漆芸、陶芸、染織の6分野に、2022年度学部カリキュラムより併設された素材造形(木材・ガラス)を加えた7分野14研究室を有しています。

大学院(修士・博士課程)においては、専門分野を主軸とした教員それぞれのテーマやキーワードを強みとする研究室に所属し、指導教員と学生が面談をして学生自身の研究テーマを確定します。各研究室の技術力・発想力・行動力などの特性を生かした指導のもと、各々に必要な専門分野の研究を深

めていきます。学部で得た技術・知識をさらに推し進めた専門性に特化する研究が可能であるとともに、世界各地にある国際連携校を含めた国際交流を積極的に行う研究室、社会連携や国内外のプロジェクトに参加する研究室など、国内外へ広く発信を行いつつ、学生の視野を広げる取り組みも行っています。独創性・独自性を持ち合わせた教員による専門性のある研究室と多様な専門分野の設備を有している本学ならではの研究や経験を積むことのできる環境が整っています。

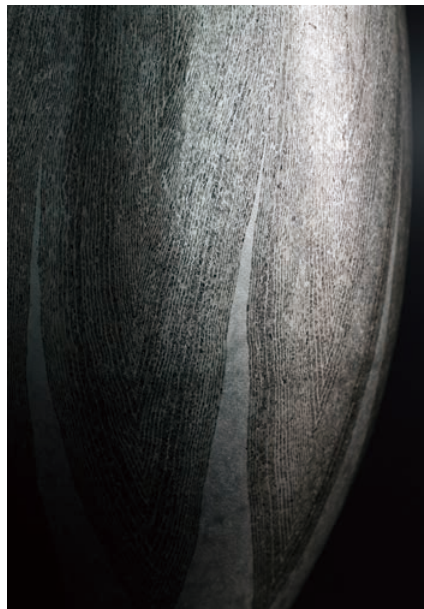


教授 前田 宏智

専門分野 | 彫金
MAEDA Hiroto



テーマ
素材と手法の展開
キーワード
金属素材の面白さ
行為と表現



金属は元来鉱物として存在し、様々な性質、個性をもっています。有史前から作り手は対話を繰り返して、魅力を引き出し、試行錯誤を重ねてモノを生み出してきました。そのような観点から、彫金を中心とした様々な素材や技法、道具などをあらためて受け取り、現代に求められる表現のために作る力を広げたいと思います。

教授 岩田 広己

専門分野 | 彫金
IWATA Hiroki



テーマ
複合装飾/ジュエリー
キーワード
純粋と応用
身体と造形
感覚と思考



金属に装飾を施す彫金という造形行為をもとに、素材や技術は元より、思考を軸とした表現や対象とする事柄の本質を考え、様々な要素が重なり合う複合的な視点や手法で、人から空間に至る様々な場面における造形やジュエリー表現の可能性を求め研究を行っています。

教授 丸山 智巳

専門分野 | 鍛金
MARUYAMA Tomomi



テーマ
金属造形表現
キーワード
伝統技法と現代

鍛金の伝統技法と現代の機器を用いて、より自由な造形表現の可能性を研究し、鍛金の要である道具造りから金工技法を学ぶことにより本質的な造形力を養う授業展開をしています。社会との連携においてもワークショップ等を介して金属造形の楽しさを提供しています。



教授 谷岡 靖則

専門分野 | 鋳金
TANIOKA Yasunori



テーマ
消失原型による細密鋳造表現
キーワード
細密表現
消失原型
ロストワックス鋳造

ロストワックス鋳造法は紀元前から現代に至るまで使われている技法であり、世界各国との地方でも実践されています。その技法は様々であり、鋳型にはその地方の特色も見られます。本研究室では美術鋳造の基本であるロストワックス鋳造法を多岐に亘る視点から紐解き、現代に於けるより細密な鋳造表現の可能性を探りながら新しい表現は何かを研究しています。



教授 志村 和彦

専門分野 | 鍛金
SHIMURA Kazuhiko



テーマ
金属造形
キーワード
鍛造表現

素材の特性を理解しつつ表現していくことで気づく自己の世界観や、伝統技法を基盤として新たな表現の可能性を探ることが大事だと考えます。素材、技法、自己の世界観のそれぞれを対話させながら、主に鉄を素材として鍛造技法による作品を展開しながら、金属造形表現の可能性を追求しています。



准教授 三枝 一将

専門分野 | 鋳金
SAEGUSA Kazumasa



テーマ
鋳造の芸術的表現
キーワード
ロストワックス
真土型/型取り
鋳造技術史研究

溶解した金属を鋳型に流し込む行為はシンプルですが特有の醍醐味があり、そこには刹那、永続、境界、象徴、模倣、変容などの意味と世界観を孕んでいます。また、工程の中で移り変わる多様な素材と対話することは私達の身体的な想像力を刺激してくれます。常にフィジカルに思考しながら、学生と共に現在進行形の鋳金表現を探究していきたいと考えます。





テーマ
漆芸技法の応用
キーワード
蒔絵／螺鈿／乾漆
伝統技法

金属粉や貝を用いた伝統的な装飾技法（蒔絵や螺鈿）と造形表現（木胎・乾漆）に現代的な感覚を取り入れた漆芸技法の追求をしています。学生と共に漆芸技術のあるアジア圏を中心に交流を積極的に行い、研究成果を国際社会へ発信しています。



テーマ
焼成による素材変化
キーワード
窯構造・築窯
土
技術・技法
陶の可能性

窯構造、焼成方法、築窯を通して陶芸の視座を養い、土・素材自体を問い、新たな解釈、造形の可能性を追求します。



テーマ
乾漆造形
キーワード
乾漆
塗料表現
漆液精製
装飾造形

漆は植物の樹液です。縄文時代から日本で使われてきた造形素材で接着剤、塗料の2つの役割があります。形を造るところから画材まで一貫して漆が主軸になり造形が可能です。制作にはとても時間を費やしますが、完成した時の輝きは他の材料では表現出来ない美しさがあります。



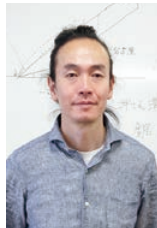
テーマ
陶磁造形
キーワード
素材探求
質感
器
表現

陶磁造形素材の研究を進め、用途と美術表現の両視点から色彩・形態・質感との関係性を探求し、陶磁造形と物・人・空間・社会との関連性を追求しています。



テーマ
繊維造形
キーワード
繊維造形・織・染

織・染・繊維造形の幅広い研究制作と教育の経験を活かし、繊維素材を用いた造形表現や活動をサポートします。指導教員と学生は対等な関係で、個々の研究概要に沿って大学院修了後の活動を見据えた独自性の高い研究活動を探求します。研究室と修了生は、将来も協働できる存在になることを目指しています。



テーマ
木工の技法と材料／木材の造形
キーワード
木工とかたち／手仕事と木工具
木工における構造
リレーション

本研究室では木工技法材料研究と木材造形研究を主旨としています。この過程を通じて、一人一人が独自の素材観を培い、技法の修練をしながらその制御を身につけます。また制作した作品や研究がその本質を衝くものであるか、教員学生共に批評性を持ちながら対話をしてゆきたい。それらを踏まえて創作のベースとなる豊かな感性や自立した理念を養い現代社会における有効な作品のあり方を探求し、そして人々との多様で良い関係性(Relationship)を築くものを見つけたいと思っています。



テーマ
伝統染色技法の展開
キーワード
糊防染
着色防染
型染
友禅染

伝統染色技法である、友禅染・型染に着目し、糊による着色防染技法を使って独自の表現に展開し、新しい染表現を探求しています。また、それら伝統技術の記録・保存への取り組みも重要視し、その上で「染める」ことだけではなくテキスタイル全般の可能性や多様性に目を向け、柔軟な視点・思考に重きを置いた指導を目指します。



テーマ
素材の理解
キーワード
透明素材と表現

ガラスをはじめさまざまな素材の特徴を理解し、確かな技術と豊かな表現力を備えた人材の育成を目指しています。個人の表現としては、ガラスに限らず「熱」をテーマに素材を選び、インスタレーションやパフォーマンスを取り入れた制作にも取り組んでいます。





www.kogei.geidai.ac.jp
工芸科ウェブサイト

www.geidai.ac.jp
東京藝術大学ウェブサイト

DEPARTMENT OF CRAFTS, TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS



東京藝術大学

上野校地 | 〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

取手校地 | 〒302-0001 茨城県取手市小文間5000

お問い合わせ先: 050-5525-2075 (東京藝術大学学生課入学試験係)

本書に掲載されている内容は2025年5月現在のものです。図版および文章の無断転載を禁じます。
©2025 Department of Crafts, Tokyo University of the Arts

Cover: 亀岡 信之助《豹皮覆蔵秘寒守護石》(修了買上作品) 技法: 石膏埋没轉造法、石彫 / 素材: フロンズ、石 (レットトラバーチン)、木 / h80 x w120 x d150cm